

<b>建学の精神</b> 『質実剛健、尚学共助の校風と知徳体の調和のとれた学びの場を目指す』(昭和57年11月1日)	
<b>校 是</b> 誠 実 意 欲 創 造	
<b>教育目標</b>	<b>重点目標</b>
1. 真理を探究し、平和を尊び、自主的に行動する力を身につける。	1. 学力の充実を図り、日々基礎・基本を重視して思考・判断・創造力を育み、生徒の希望する進路実現を目指す。
2. 身心を錬磨し、不屈の精神を養う。	2. 生徒一人ひとりが意欲を持って諸活動に取り組み、達成感を得ることのできる学校づくりを目指す。
3. 勉学に励み、品性を陶冶する。	3. PTA(保護者)・地域(同窓会)・教員との三者の連携、協働により生徒を育み、開かれた学校づくりを目指す。
	4. すべての生徒と職員が誠実な心を持って規範意識を高め、いじめ・体罰を許さない、安心安全な学校を創造する

評価項目	評価の観点	評価(%)※				現状・経過	成果・課題	改善策・向上策
		A	B	C	D			
学習の充実と進路実現 (重点目標 1)	教育課程・シラバスに沿って、基礎基本の定着を図る授業展開ができたか。	20% ↘	70% =	10% ↗	0% =	① 概ね各学年、教科で計画通り学習活動を実施することができた。ICTも生徒の実態に合わせた活用がなされている。昨年度からの教育課程の変更柔軟に対応できるよう努めた。より多様化する生徒に対応できるよう、教授法などに工夫を凝らし取り組んだ。	各教科とも基礎力の充実に力を入れた授業、補習を行うことができた。また、生徒の実態に合わせ、工夫した授業を実践できた。各学年とも基礎力の充実と、一層の学力向上に向け、力を入れた授業、補習などを実施した。学習の成果を生徒にフィードバックする方法が課題となる。	学びなおしを含めた、基礎的な学力の定着に向け、家庭学習の習慣づけが必要だと考える。現状を把握し、早い段階での個別指導も重要である。実態に合わせた授業運営を心掛けているが、加えて、家庭での学習が習慣化するよう指導をし、成果を体感させる必要がある。
	生徒に学ぶ理由を考えさせ、ICT機器等の活用などにより、意欲を喚起し、学習習慣を身につける指導を行うことができたか。	20% =	60% =	20% =	0% =	② 職員ICT研修を複数回行い、オンライン授業、円滑化に繋がった。生徒もICT機器を利用した授業に慣れ、スムーズに展開する授業が見られた。	各職員が、動画など様々なコンテンツを利用し授業を行うことにより、各生徒が多角的な興味関心を抱き、自ら調べる姿が見られた。	既存のコンテンツも利用しながら、様々な手法により、生徒の学習意欲・関心を高める必要がある。
	進路実現のための適切な情報提供と、個々の生徒の希望に添った進路指導ができたか。	20% ↘	70% ↗	10% =	0% =	③ 学年・担任・生徒個人に、時宜に応じた進路情報の提供、学校説明会等への参加、情報収集に努め、上級学校にも情報提供を依頼、就職指導でもローラーなどと連絡を密に、企業からの情報とともに提供してきた。担任・係による個人面談等、個々に具体的な指導を行った。	卒業生は、進学・就職とも概ね希望する進路実現ができた。一方で進路実現をしようとする意識の低い生徒の指導が課題である。また、上級学校において多様な入試形態や分野(学部・学科・コース)の細分化や改革が進行中であり、情報過多な状況にある。	高大連携を一層推進し、情報の共有を図り、進路指導に生かす。生徒の希望進路(分野)に応じた上級学校見学、出前授業、企業見学・体験を積極的に行うとともに、生徒・保護者自ら主体的に進路情報を得ていく指導を行う。
	キャリア教育を推進し、生徒が希望進路を実現できるように、進路意識の向上を図ることができたか。	10% ↘	80% ↗	10% =	0% =	④ 各学年、生徒の状況に応じた進路ガイダンスや講話などを実施。進路説明会等・オープンキャンパスへの参加指導、出前授業や上級学校見学の実施等、進路実現への意識喚起に努めた。就職指導でも企業見学・就業体験の実施、企業がイグニスへの参加など、進路意識の高揚に努めた。	進路意識を高く持ち、日々学習活動などに励んでいる生徒がいる一方で、主体的に自己の課題として取り組めない生徒がいる。この両者の格差が著しい。	進路実現が自己の課題であることの早期理解と主体的に取り組ませる指導、職業・学問研究、課題解決学習で視野を広げ、深める指導をする。「統計的調査」「進路意識の高揚」「保護者の考えの把握と意識喚起」の3つの側面を意識して進路希望調査と事後個別指導を実施。
自主活動の活性化 (重点目標 2)	蒼穹祭・クラスマッチなどの学校行事を充実したものにできたか。	20% ↗	80% =	0% =	0% =	⑤ 学校行事では、コロナ禍での規制を緩和して、コロナ前に戻す取り組みをした。	生徒が自主的計画的に企画運営をした。	文化祭では日程変更を含め改善すべき課題がある。
	生徒会活動・クラブ活動を活性化させ、田川高校全体の活力を高めることができたか。	15% ↗	70% ↗	15% ↘	0% =	⑥ ここ数年新入生のクラブ加入率が低下傾向にある。また、生徒会活動も役員中心になりがちである。	新入生に対する、クラブ説明会を工夫し新入生の加入率を上げることができた。ボランティア活動など全校に呼びかけて行うことができた。	クラブの継続率を上げるボランティア活動などへの積極的な取組が必要である。
	清掃活動にきちんと取り組むよう指導できたか。	20% ↘	70% ↗	10% ↗	0% =	⑦ 日々の清掃は教員が分担場所の指導をしている。また、生徒会役員や部活生徒の協力で校舎内外の清掃(整備)活動を行った。	大掃除を複数回設定し校内美化に努めた。各クラスに委員を通じて呼びかけを行い、清掃活動の充実を図った。	日々の清掃の徹底とゴミの減量化及び分別の徹底。
開かれた学校づくり (重点目標 3)	PTA・同窓会と連携して、魅力のある、地域から信頼される学校づくりを進めることができたか。	0% ↘	70% ↗	30% =	0% =	⑧ PTAは三役を中心にコロナ後の活動を徐々に活性化してきたが、一般会員の関心・参加はなかなか高まらない。同窓会は40周年記念事業後活動が停滞してしまった。	ただコロナ禍以前に戻すのではなく、組織や活動を見直してアップデートすることが必要だが、地区PTAを廃止してそのきっかけを作ることができた。	次年度は理事会を減らすとともに、常任および専門委員会の廃止、講演会の見直し等で、負担なく継続していけるPTA活動を目ざす予定である。
	webページ・各種通信・公開授業・中学生体験入学など様々な機会をとらえ、田川高校を発信することができたか。	10% ↘	80% ↗	10% =	0% =	⑨ webページは支援員の協力で大幅に刷新できた。スクールガイドや体験授業も例年並みに進めることができたが、公開授業はPTAの授業参観のみだった。	統合に向けた取り組みが進む中、現在また統合までの本校の魅力をアピールするあらゆる機会と方法を求めることが求められる。	webページはクラブ活動や行事などをタイムリーな更新で発信したい。蒼穹通信は以前のように近隣中学への配布を検討したい。
規範意識と自他を敬愛する心 (重点目標 4)	遅刻指導など、基本的な生活習慣を構築させる指導ができたか。	0% ↘	50% =	40% ↗	10% =	⑩ HR、教科、学校生活のあらゆる場面において、時間を守るといった基本的な内容は生徒に伝えている。アルバイト許可の要件に遅刻等を含めるようにした。	遅刻する生徒は固定化され、それらの生徒は急ぐ素振りさえ見せない。アルバイト許可の要件になったことで、一部生徒は意識しているようだ。	次年度から、1限後にSHRが実施されるため、遅刻は減ると考えられるが、実効性のあるものとするため、全教員が遅刻・欠課の時間を厳格に守るよう徹底する。
	交通安全・頭髪指導など、モラル・規範意識の向上を図る指導ができたか。	10% =	50% =	30% ↘	10% ↗	⑪ 今年度も交通ルールを守っていないとの多数の情報提供をいただいた。頭髪の染色については多くはないものの、特定の生徒が繰り返し指導を受ける状態である。また、ピアスに関しては指導が徹底できておらず、違反者の数は増加している。	交通安全に関しては、集会などの場面で、全体に向け話をしたほか、オクレンジャーで生徒だけでなく保護者に対しても情報提供を行った。頭髪は一部違反生徒の状況が他の生徒にも悪影響を与え、ピアスに関しては悪化している。	頭髪の染色については、直すまでの期限を決めた。次年度から運用する。ピアスについてもその場で外させる指導を行いたい。交通ルールについては引き続き情報提供に努める。
	生徒の人権意識を高め、いじめ・暴力のない学校づくりができたか。	10% ↘	50% =	30% ↗	10% ↗	⑫ 様々な講演や人権映画上映、学校生活アンケートを通して人権意識を高める取り組みができた。体育館などに学年が参集することができた。	参集とオンラインを上手く使い分け、効果的な方法を模索することができた。SNSやインターネットでのトラブルはなかなか表面化してこないため、初期対応・指導が難しい場面が多く課題が残る。	今後もSNSの使用だけではなく、生徒の実態に応じて講演などの内容を精査し、他者理解を深め人権意識を高めることの内容にしていける必要がある。
	生徒個々の内面に寄り添って相談にのり、生徒の心身の健康を保つための支援ができたか。	20% =	80% ↗	0% =	0% =	⑬ コミュニケーションへの苦手意識が強い生徒が増加。コロナ禍での出席の変化は、友人関係を築く機会を減らし、不登校の要因となった。生徒の手に手を差し伸べられない状況もあった。様々な情報を共有し、配慮を要する生徒を把握し、SCを含む関係職員で対応を検討し支援に繋がった。	SCやSSWに繋がったり、地域の支援担当者、医療機関との支援会議を持ち、常に外部機関と連携、助言を得て、個々の生徒に適切な支援を模索し実践した。優先順位がつけられず、山積する課題に苦痛を感じている生徒もいる。今後、学習面での支援体制も整える必要がある。	担任、教科担当、クラブ顧問、保健室などでキャッチした情報を迅速に共有し合い、家庭や外部の専門機関と連携を取りながら生徒に寄り添った対応を協議、実践する。校内研修を通して教職員の専門的知識習得、相談スキル向上を図り、より一層のチーム支援体制を強化する。

【達成度】 A:ほぼ目標を達成した B:どちらかといえば目標を達成した C:どちらかといえば達成できなかった D:達成できなかった

矢印 ↗ ↘ は、昨年度の中間評価との比較

※ 評価は全職員による